

第六次諏訪市総合計画策定の基本概要

諏訪市企画政策課

※総合計画審議会に先立ち、総合計画策定の基本概要について本資料にて説明いたします。

1 諏訪市総合計画とは

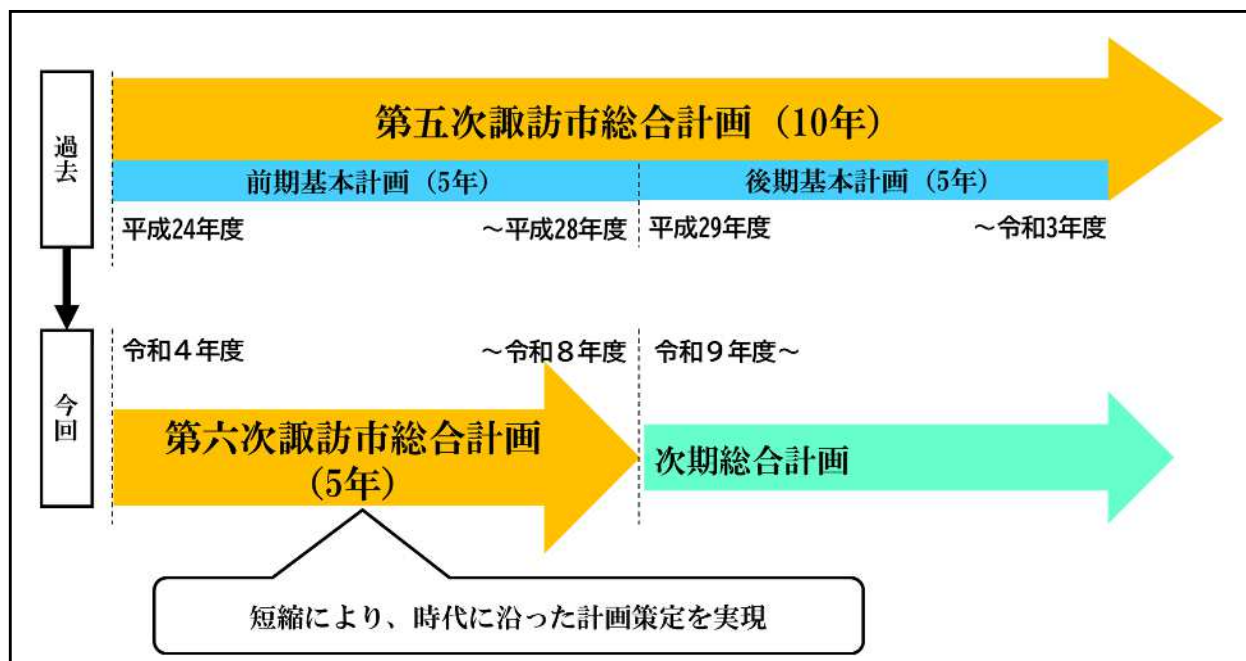
諏訪市には多くの計画があります。その中で、諏訪市総合計画は「市政運営の最上位計画」です。その他多くの計画も、今後この計画と目指すべき方向性や足並みを揃えて策定することとなります。なお、令和3年は第五次諏訪市総合計画の後期基本計画計画期間中です。

2 第六次諏訪市総合計画の特徴

第六次諏訪市総合計画は、これまでの計画と下記の点が大きく違います。

(1) 計画期間が短縮（10年から5年に）

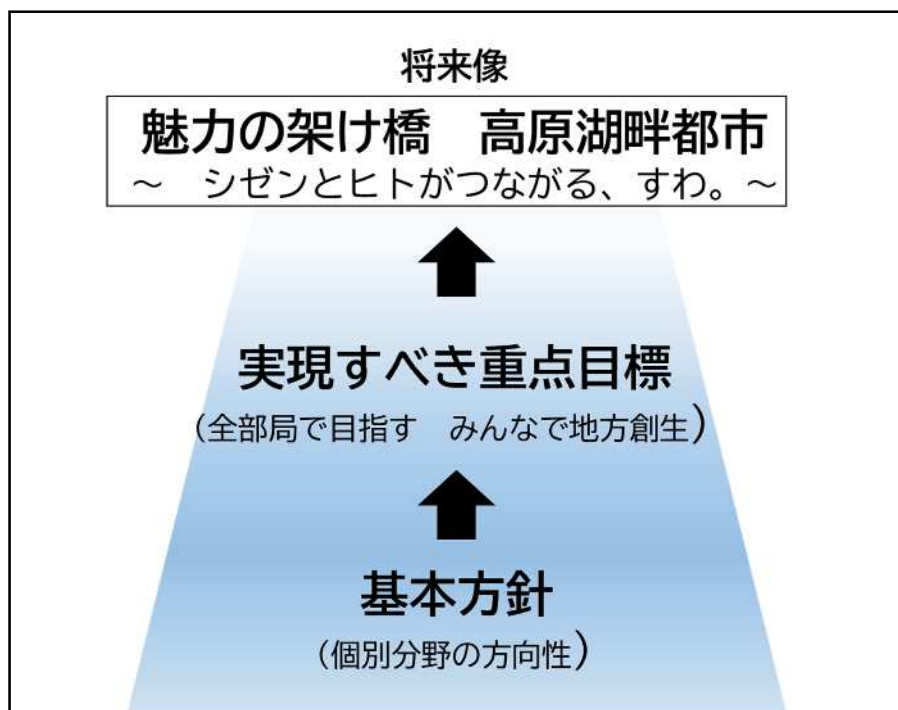
これまでの総合計画は前期基本計画の5年、後期基本計画の5年を合わせた10年の計画でした。しかし、世界の変化のスピードは加速しています。その変化のスピードに対応し、時代に合った計画、市政運営をしていくため、計画期間を短縮し5年間としています。



図：総合計画計画期間

(2) 構造をシンプルかつ明確に

第五次諏訪市総合計画は将来像、テーマ、基本目標、基本政策、諏訪未来プロジェクト、基本施策と複雑な構造となっていました。第六次諏訪市総合計画は、将来像、実現すべき重点目標、基本方針の3層構造とし、わかりやすいシンプルな構造となっています。



図：総合計画構造概略

また、目標値となる KPI は、アウトカムを基本として設定しています。

アウトプットは事業自体の結果、アウトカムは事業によりもたらされた結果です。事業をすることが目的ではなく、事業をすることで目指すべき姿が達成されるという構造となります。

(3) 地方創生総合戦略要素一体化

日本は人口減少局面に突入しており、今後加速度的に進むことが予想されています。この人口減少社会に対応した地方創生を目指すために、諏訪市でも国の示す戦略を勘案して、「諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

今後の自治体において、地方創生の実現は避けて通れない課題です。そのため、第六次諏訪市総合計画に地方創生総合戦略を一体化して策定することとしました。第六次諏訪市総合計画は、第2期諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略という側面を持ったものとなります。

(4) SDGs 要素の反映

SDGs とは英語で Sustainable Development Goals の頭文字で表されており、日本語訳では「持続可能な開発目標」となります。これは、「国際社会が 2030 年までに、貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指標」として、国連が採択した議題に含まれる 17 の目標

と169のターゲットのことを指します。

これについて、日本も「持続可能な開発目標（SDGs）実施方針」で、地方自治体の各計画にSDGs要素を最大限反映することを奨励しています。諏訪市でも、今回の第六次諏訪市総合計画の基本方針検討時にSDGsとの関連を意識しています。

（5）国土強靱化地域計画一体化

国は、大規模自然災害等に備え、事前防災・減災と迅速な復興に資する施策を、まちづくり政策や産業政策も含めた総合的な取組として計画的に実施し、強靱な国づくり・地域づくりを推進するために国土強靱化基本計画を策定しています。

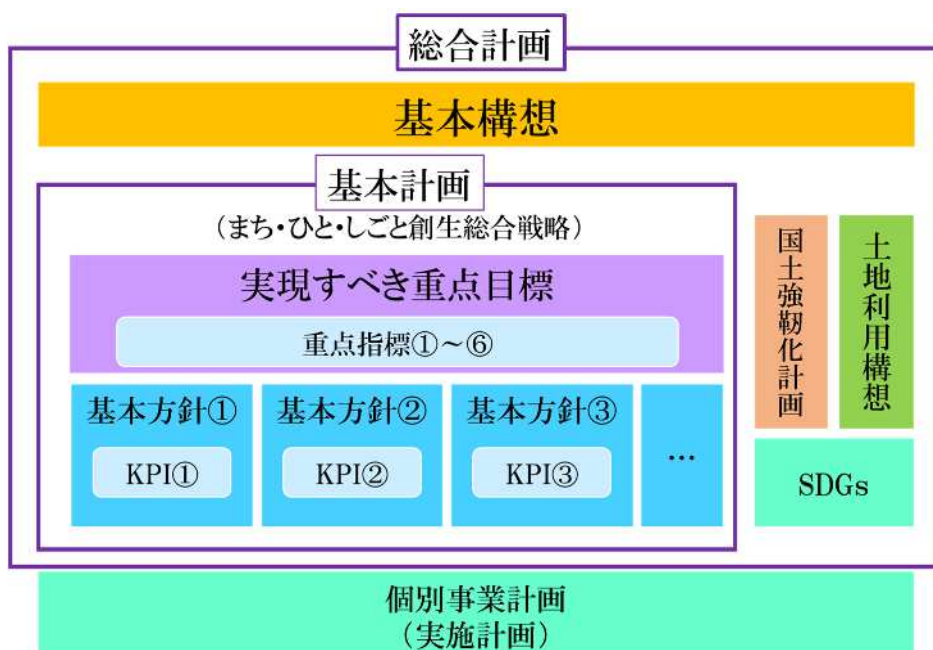
諏訪市でも、国の考えを踏襲し、国土強靱化地域計画を策定する必要があります。そんな中で、総合計画各施策との関連を念頭に置いた計画とするため、一体化して策定をしています。

（6）土地利用構想（国土利用計画）

地域の特性に応じて総合的で計画的な将来の土地利用の方向性を示すものです。諏訪市では以前まで国土利用計画を策定していましたが、市の方向性を示す総合計画に土地利用構想を一体化することとしました。

3 第六次諏訪市総合計画に含まれる要素

第六次諏訪市総合計画は基本構想と、基本計画によって構成されます。基本構想は将来像と政策体系等を示したものであり、基本計画はより具体的な内容を示したものです。前述で示した通り、第六次諏訪市総合計画は国土強靱化地域計画、土地利用構想、SDGsといった要素も一体化したものとなります。なお、個別の事業（補助金、支援事業等）は個別事業計画であり、総合計画には含まれません。これは、総合計画を基に、各課所において毎年度検討し予算要求していくものとなります。



図：総合計画に含まれる要素概略図

4 これまでの策定過程

令和2年度から、諏訪市では以下の様な取組をしてきました。

(1) 総合計画策定部会

副市長を委員長、部局長を委員、課所長を幹事として、庁内にて総合計画の基本構造、基本方針等の策定実務を担っています。今年度も、総合計画審議会での審議やパブリックコメントでいただいた意見を反映する等、引続き実務を担います。

(2) 市民アンケート

令和2年4月末に実施した満足度調査と併せて総合計画アンケートを実施しました。新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言時の調査だったこともあり、医療に関心が高まる時期であり、医療体制が充実したまちを望む声が高まっていました。加えて、高齢者・障がい者・子どもにやさしい福祉のまち、美しい湖・自然環境が保全されたまち、事故や災害や犯罪のない安全なまちという「安心した生活」を望む声が多く、20～30歳代ほど子育てに対する関心が強く、10歳代では環境保全と観光に対する関心が高まっていました。

また、思い描く諏訪市の将来都市像のキャッチコピーを一言で表現してくださいという設問に対して、多くの意見をいただきました。記載を分類すると「誰もが」「子どもから高齢者まで」という多様性、「諏訪湖」「自然豊かな」という自然、「住みたい」「住みやすい」という暮らしやすさに関する記述が多く、どんな人でも安心して生活できる諏訪市になってほしいという思いを持つ方が多い傾向にあることがわかりました。

(3) 市民職員ワークショップ

35歳以下の若手職員23名と、20～60歳代の様々な職種の市民13名とがチームとなり、方針を検討するワークショップを開催。市長や部局長に対してPITCHと題したプレゼンテーションを実施しました。

「情報が必要な人に行き届いていない」「心地よいまちをつくりたい」「魅力は多くあるが、それを十分に活かしきれていない」という分析があり、特に情報が届いていないということは、今ある魅力に気付いていない、魅力が伝わっていないという事を表しています。

そんな中で、各グループからは「地域力を上げて人口増加」「誰もが歩きたくなり、愛着の湧くまち」「すきになるまち、いごこちいいまち」「諏訪の魅力と人をつなげて誰もが誇れる市に」「諏訪市に住みたいを増やそう」といった提案がされました。

(4) 児童生徒意見反映機会

総合計画策定にあたり、市内小中学生の授業における研究からの提言もいただきました。中学生からは、「諏訪湖を代表する自然を守ってほしい」「子どもを産みたくなるまちにしてほしい」という意見がありました。また、「地域の特色を生かした製品を生み出す企業をつくる」という意見や、「自然はあるけど過ごしやすい「田舎の都会」」、「市でやっていることが市民に広まっていないので、周知をしっかりとったほうがいい」という若者の視点からの意見をいただいています。

中学生も今までの生活の中で豊かな自然や企業の集積などについて気付いています。しかし、それが多くの人に伝わっていないことから真価を発揮できていないという現実も明らかとなっています。



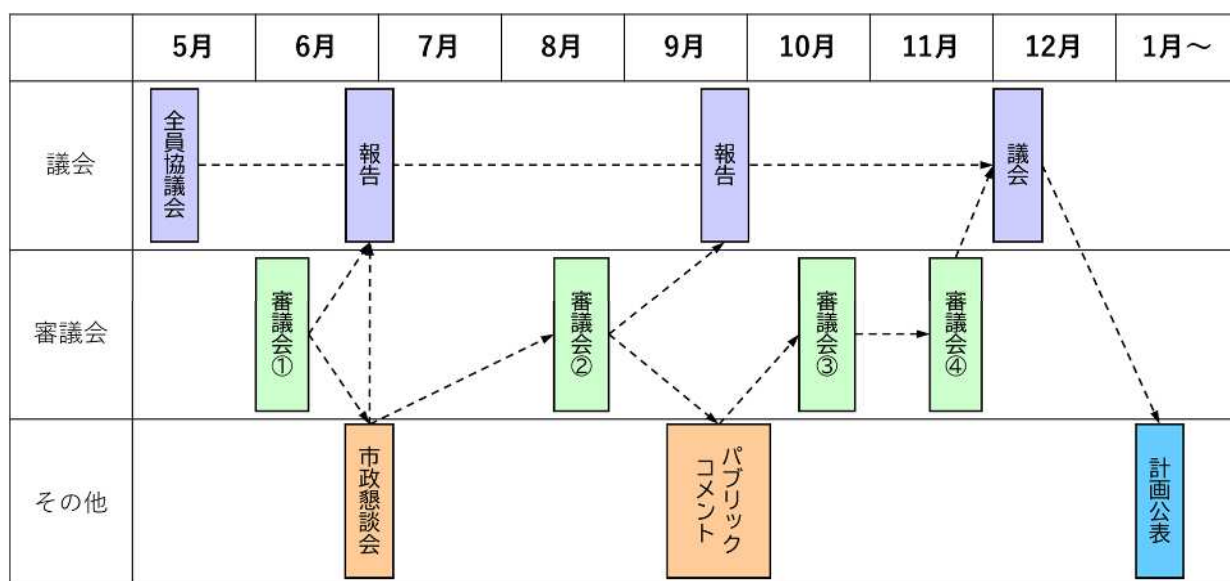
図：令和2年度の策定経過

5 今年度の策定スケジュールについて

今年度は、諏訪市総合計画審議会による審議の他に、市政懇談会における意見交換、パブリックコメントの実施を予定しています。

諏訪市総合計画審議会での予定議事は以下のとおりです。

- 第1回 諮問、総合計画の基本構造、将来像等の骨子についての確認
- 第2回 個別分野の詳細を含んだ総合計画（案）についての確認
- 第3回 パブリックコメント等の意見を反映した総合計画（案）についての確認
- 第4回 最終答申案確認、答申



図：令和3年度の策定スケジュール